



# ISLAND CAFE meets Sandii the Hula Songs



## Robi Kahakalau (ロビ・カハラカウ)

ハワイのアイランド・コンテンポラリー・ミュージックの代表的グループ、「ハワイアンスタイルバンド」のボーカリストとしてデビュー以来、長く活躍を続けるシスタア・ロビ。「シスタア」とは、ハワイで女性の友人に対し、尊敬の気持ちを込めてつける呼び名。シスタア・ロビとして、愛されるハワイのトラディショナルな文化とコンテンポラリーな音楽様式を調和させたサウンドで人気のある女性シンガー。1996年度ナ・ホク・ハノハノ・アワードで最優秀女性ボーカリスト賞とアイランド・コンテンポラリー・アルバム賞という2つの大賞を受賞した。レゲエ・ナンバーからハワイアンミュージック、コンテンポラリーまでバラエティ豊かなジャンルを、アロハ・スピリットあふれる明るい声で歌う。



## Keall'i Reichel (ケアライ・レイシエル)

ハワイアン・ミュージック・シーンの最高峰に君臨するケアライ・レイシエル。2014年に10年ぶりに発売した「フルアルバムとしては最後の作品になるだろう」と本人が語る、アルバム「カウイオカレナ」が、イヴァーナ・ホマナヴァヌイをフューチャーした、トラディショナルソング。1995年、デビュー作「カウイブナヘシ」が当時チャートのトップにいたマドンナを抜いてNO.1を獲得するなど、ハワイの音楽史上過去最高のセールス記録を樹立。翌1996年に発表したセカンド・アルバムはビルボード・ワールド・チャートのトップ3にランク・イン。2006年には「涙そうそう」のハワイアン・カバー「カ・ノホナ・ピリ・カ」が携帯電話のCMソングとなったことで爆発的な人気曲となる。



## Raiatea Helm (ライアテア・ヘルム)

2003年リリースのファースト・アルバム「ファー・アウェイ・ヘヴン」がナ・ホク・ハノハノ・アワードで新人賞と最優秀女性ボーカリスト賞を受賞。2006年、ハワイアン・アルバム部門で女性ソロアーティストとして史上初となるグラミー賞にもノミネート。続く3枚目のアルバム「ハワイアンプロセス」も2008年にグラミー賞にノミネートされている。得意のウクレレと透き通るファルセットボイスでハワイアン・クラシックスから、ジャズ・ナンバーまでを歌う。ハワイアン・ミュージックのルーツを受け継ぐ存在。



## Hoku Zuttermeister (ホク・ズッターマイスター)

長らくCDデビューが待たされていたホクのデビューアルバム「アイナクブナ(先人たちの地の意味)」は、2008年「ナ・ホク・ハノハノ・アワード」で見事に最優秀男性ボーカリスト賞、新人賞、ハワイアン・アルバム賞、ハワイ語のパフォーマンス賞の4部門を受賞。伝統的ハワイアンミュージックの中に現代的な要素を取り入れ、4オクターブもの幅広い音域を誇る、美しいファルセットが魅力。ハワイの伝統、音楽・歴史・文化を愛するハワイアン、フラマスターとしても有名。



## HAPA (ハパ)

ハワイが世界に誇るギターデュオのHAPA。HAPAとはハワイ語で「半分」という意味。スラックキーギターの巨匠ギャビー・パヒヌイの音楽に衝撃を受けたニューヨーク生まれのバリー・フラナガンとハワイ生まれのケリー・カナリアの2人で結成され、デビューアルバムが250万枚のセールスを記録。2003年、ケリーに代わってネイサン・アウェアウと活動していたが、2011年にネイサンに代わり、現在は30年以上の友人でありハワイ・ミュージックの師匠でもある、ロン・クアラアウを3代目のボーカリストとして迎え、第3期HAPAとしてメインランドを中心に数多くのライブを行う。名実共にハワイのトップ・アーティストである。

## Eddie Kamea & Sons Of Hawaii (エディ・カマエ & サンズ・オブ・ハワイ)

1927年生まれ伝説的なウクレレ・プレイヤー、ボーカリスト、作曲家。ギャビー・パヒヌイ等と「サンズ・オブ・ハワイ」を結成。60、70年代のハワイ音楽シーンをリードし、古き良き「オーセンティック」・ハワイアン・ミュージックに新しい命を吹き込んで蘇らせた。その後のハワイアン・ミュージックに大きな影響を及ぼし、彼が残したハワイ音楽史への功績は数えきれない。まさに、ハワイ音楽界の重鎮。「E Ku'u Morning Dew (エ・クウ・モーニング・デュー)」はハワイの数多くのミュージシャンが好んで演奏する名曲。通称イズとして知られる、イスラエル・カマカヴィオオレも彼の名盤「ワンダフル・ワールド」に収録している。2017年1月に他界。



## Dennis Kamakahi (デニス・カマカヒ)

スラックキー・ギターリストであり作曲家としても有名。ハワイアン・ミュージック界のレジェンドと呼ばれる人物。キャリアのスタートは、エディー・カ'エの誘いで「ザ・サンズ・オブ・ハワイ」に参加するのが始まり。作曲家として才能を発揮して、「Koke'e (コケエ)」 「Wahine 'Ilikee (ワヒネ・イリケア)」などが代表曲。「フラスソングのスタンダードともいえる曲はデニス・カマカヒの曲」と言われるほど、フラ愛好者だけでなく、多くのハワイアンミュージックファンを魅了し、その数は500曲以上にのぼると言われている。2014年に他界。



## Mahi Beamer (マヒ・ビーマー)

ファルセットシンガーでピアニストのマヒ・ビーマーはハワイを代表する名門であり、カ・メハメハ1世の血を引く名音楽一家ビーマー・ファミリーに生まれる。1950年代より活躍、ニューヨークのカネギーホールでも公演、LP時代より終始一貫、ハワイアン・ファルセットでピアノを弾きながらホテルのラウンジで多くのファンを魅了し続けた。1959年リリースした「Hawaii's Mahi Beamer (ハワイのマヒ・ビーマー)」は、ハワイアンミュージック、フラスソングの歴史的な名盤である。収録の「キモワラ」は全編ファルセットボイスで歌い上げ、女性ボーカリストと聴き間違えらるほど。米大手キャピタル・レコード制作のフラスソングの超名曲である。1991年、ハワイ・アカデミー・オブ・レコーディング・アーツ (ナ・ホク・ハノハノ・アワード主宰団体) より生涯功績賞を与えられ、2008年には「Living Treasure of Hawaii (ハワイの宝物)」として称された。



## Hui Ohana (ホイ・オハナ)

スラックキー・ギターのトップ・プレイヤー、レッドワード・カアパナと彼の双子の兄弟ネッドワード・カアパナ、そして彼らの従兄弟であるデニス・バヴァオの3名で結成。シンプルで巧みな技を持ったギターとベースにデニスの美しいファルセットを中心にした三声のコーラスで永遠に残る魅力的な音楽を創造した。デニス・バヴァオは2002年、ネッドワード・カアパナは2015年に他界。赤いブーツがトレードマークのレッドワード・カアパナは今も健在、タジ・マール、ボブ・プロブソンズらと共に、ポップ・プロダクションとはハワイアン・ブルース・アルバムをリリース、アメリカ本土でも幅広く活動をしている。



## Na Palapalai (ナ・パラパライ)

ケハウ・タムシ、クアナ・トレス・カヘシ、クエア・コスタの3人で結成されたハワイ島ヒロ出身のバンド。ひとりひとりがおもしろいボーカリストであり、3人の奇跡のコーラスと超高音ファルセットボイスで、フランドンサーに「最も踊りたいバンド」として愛されていたが、2012年に惜しまれながら解散。リーダーでもあったクアナ・トレス・カヘシが、2011年にソロアルバムを発表、ソロデビューを果たした後、メンチー・チェンジを経て、解散までに5枚のアルバムをリリースした。「カ・ラー・オーリノリ」は、フラ愛好者に愛されている、伝統的なフラを描いた初めのハワイ発長編劇映画「ハウマナー」のサウンドトラックに収録。



## The De Lima Ohana (ザ・デ・リマ・オハナ)

オハナとはハワイ語で「家族」という意味。デ・リマ・ファミリーで構成。リーダーで父親のケリー・ボーイ・デリマは、アイランド・バンドのカパナの創立メンバー、リーダーとして活躍、「あのオハレ (ハワイ語で白人の意味) はハワイアンミュージックが非常に上手い」と評判になる。幾度かメンバーチェンジを経たカパナは、2000年代のはじめに、ケリー・ボーイの3人の子供、カヘナとカレナク、そしてリロがグループに参加し、現在はカパナとしてファミリー・バンドで活動中。デ・リマ・オハナ・デュオ、デ・リマ・オハナ・トリオとしても、ワイキキのラグジュアリーホテルのラウンジでの演奏活動を続け、親子ならでのハーモニーで多くの人を魅了する。



## The Lim Family (リムファミリー)

ハワイ島コハラ出身の音楽一家「リムファミリー」。母親であるアンティ・リム、娘のナニ・リム・ヤップ、ローナ・リム、息子のサニー・リムで構成。1979年リリースのファーストアルバム「サンズ・フロム・コハラ」でハワイで最も人気のあるグループとなる。「プア・オレナ」が収録された1981年発売のアルバムは「ナ・ホク・ハノハノ・アワード・ベスト・トラディショナル・ハワイアン・アルバム」を受賞。フラ界をリードし続けるハワイ島の名門中の名門のフラ団体「ナー・レイ・オ・カホロク」を師のレイアロハ・リム・アマシと共に主宰。その音楽性は、フラへの深い知識がベースとなり、ハワイ島の伝統的な音楽を踏襲している。サニー・リムは2005年グラミー賞ハワイアンミュージック部門を受賞したハワイでもトップクラスのスラックキーギター奏者。



## Sandii (サンディー)

70年代初期から活動。1980年、細野晴臣プロデュースの初ソロアルバムを日本、イギリスでリリース。その後、「久保田康孝と夕焼け楽団」を母体にした「サンディー&ザ・サンセット」で海外で高い評価を得る。1980年、初ソロアルバム「イーティン・プレジャー」を、日本とイギリスでリリース、世界でも通用するアーティストとして認められる。1996年からは、自身のバックグラウンドでもある、ハワイアンミュージックを基調としたアルバムをセルフ・プロデュース。フラスタジオを設立。フラ・カルチャーの伝播に務める。2005年には数々の修行が認められ、「ウニキ・クム・フラ (フラの伝統継承者)」の称号を、ハワイの先人達から授かる。